作文添削　まずは本文を読み取ろう！

（適性検査型Ⅰ　基本編）

練習問題Ⅰ（三十分）　（全二ページ）

〈基本問題　三十分　＋応用問題〉

添削をご希望の方は、ホームページからお申し込みください。

東京純心女子中学校

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（＊印のついている言葉には本文のあとに［注］があります。）

◆フランスの哲学者ミシェル・フーコー（一九二六～一九八四）は、『監獄の誕生』という著書の中で、近代社会の特徴を「監視」という視点から考えています。

そこであらためて、「監視社会」の意味を考えてみたいと思います。この言葉が、いっぱんに注目されるようになったのは、「監視することと処罰すること」という原題をもつ＊フーコーの『監獄の誕生』からです。注目すべきは、この本でフーコーが「監視」を描いたとき、それを「近代社会」の特徴として示したことです。言いかえると、フーコーは「近代社会」を「監視社会」として理解したのです。（中略）

フーコーによると、古代社会は「多数の人間が少数の対象を観察する」見世物の文明とされます。それに対して、近代社会では、「少数者、さらには唯一者が多数のものを見る」監視の文明なのです。「古代＝見世物」、「近代＝監視」という図式が、ここでは支配しています。しかし、この図式は、（中略）重大な見落としが潜んでいます。というのも、「人民の監視」というのは、近代になってはじめて生まれたのではないからです。

周知のことですが、近代以前のキリスト教の教会制度は、住民の「監視」装置でもありました。また、日本でも、＊江戸時代の「五人組」や「寺請制度」などは、住民の「監視」を徹底して行っています。（中略）

したがって、近代社会になって「監視社会」が始まったと考えるならば、大きな間違いになるのではないでしょうか。むしろ、「監視」はいつの時代にもありましたし、その意味では「監視社会」は＊歴史貫通的なのです。したがって、フーコーの議論から「近代社会＝監視」という図式を読みとることは、おそらく＊ミスリーディングな理解になるでしょう。では、「監視社会」について、どう考えたらいいのでしょうか。

大胆に言ってしまえば、「監視」があるかどうかは近代社会の特質とはなりません。「監視」はどんな社会にもあり、＊歴史通底的なシステムだからです。むしろ、近代の特質と呼ぶべきは、いかなる「監視」が行われるか、という様式の方です。監視の様式こそが時代を分けるのです。古代には監視の古代的な様式があり、近代には監視の近代的な様式があるわけです。フーコーが明らかにしたのは、監視の近代的な様式であって、近代を監視社会と規定することではありません。

この点に注意を促したのは、いっぱんに「監視社会」と言われるとき、ただちに否定的なイメージを喚起し、恐怖の政治体制と理解されるからです。けれども、「監視社会」かどうかではなく、どんな「監視社会」なのかが問題でしょう。「監視」そのものを排除するのは、まったく意味をなしません。では、監視の現代的な様式は、どのようなものなのでしょうか。

たとえば、監視カメラを考えて見ましょう。近代の「＊パノプティコン」とくらべるとよく分かりますが、監視カメラが対象とするのは「匿名の群集」です。フーコーが分析した近代的な監獄では、監視されるのは一人一人＊同定された人々です。ところが、監視カメラで撮影される人は、どこの誰か不明なのです。コンビニやデパート、商店街に設置されているカメラでは、見知らぬ人々が常に映されています。

では、誰だか分からない人々は、何のために監視されているのでしょうか。それは、基本的な規則を破ったり、秩序を乱す人がいないかどうかを監視するためです。コンビニでは万引きが、デパートでは盗難が、商店街では喧嘩や殺人などが起きないかどうか、監視されています。そのため、「ふつうの生活」をしているかぎり、監視はほとんど問題にならない、などと言われます。監視されたくない人は、犯罪者であったり、危険人物というわけです。

ここから分かるのは、現代の監視で求められているのは、犯罪者や危険人物を検出し、それらの人々を排除することにあります。この点は、マンションの監視カメラを考えると、納得できるでしょう。ふつうに生活している住民にと

って、監視カメラは不審者などから身を守るための装置となるのです。

近代の「パノプティコン」では、犯罪者が監視されることによって、規律や秩序を守るように訓練されました。そのため、フーコーは「監視」の作用を、「規律・訓練の権力」と呼びました。ところが、現代社会では、監視によって「規律・訓練」を施すことが不可能になっています。商店街の監視カメラは、通行人に規律を与え、秩序を守るように働きかけているわけではありません。むしろ、ルールが守れない人々を検出・排除し、ルールを守る人々の安全を確保するために、設置されているのです。

近代の「パノプティコン」と違って、ここでは自由に行動することが許されています。ただし、根本的なルールに従ったうえでの話です。監視が働くのは、この基本ルールに反する危険人物をチェックするためです。ある意味では、自由に行動するためにこそ、監視が必要になるとも言えます。その点では、現代の監視社会を否定することはきわめて難しいでしょう。

（岡本　裕一朗『12歳からの現代思想』より。本文には省略等があります。）

［注］

＊フーコーの『監獄の誕生』 ―― フランスの哲学者、ミシェル・フーコーの本。
＊江戸時代の「五人組」や「寺請制度」 ―― 日常生活の中で、近隣の人々同士で連帯責任や相互観察を行なったり、寺から自分の宗教を保証してもらったりする制度のこと。
＊歴史貫通的 ―― ここでは、歴史の始まりから現代にいたるまで、という意味。
＊ミスリーディングな理解 ―― 間違った理解。
＊歴史通底的なシステム ―― ここでは、どの時代の歴史でもある程度共通して見られる仕組み、という意味。
＊「パノプティコン」 ―― 監獄のモデルとして考案された「一望監視施設」を意味し、ある一箇所からそこに収監されている全員を監視できるシステムのこと。
＊同定 ―― 同じであると証明されること。

【基本問題　内容を読み取ろう！】

この文章は、現代の「監視社会」について述べられています。その具体例として、波線部にあるとおり「監視カメラ」が取り上げられていますが、筆者は「監視カメラ」の役割をどのようなものだと考えていますか。次の各文の空欄に合うように、本文中から抜き出しなさい。

監視カメラ」は【　ア　】ために設置されている。

現代の監視で求められているのは、【　イ　】ことであるといえる。

そうすることで、【　ウ　】ことができるのだ。

なぜなら、一般の人々が、【　エ　】にこそ、現代の「監視社会」が必要になるからなのだ。

【応用問題　本文を要約してみよう！】

二重傍線部にもあるとおり、筆者が述べている「現代の監視社会」は、「どんな『監視社会』なのかが問題でしょう」。その特徴を、八十字以上九十字以内で答えなさい。なお、、や 。も、それぞれ字数に数えます。

問題は以上です。